

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年8月10日
【四半期会計期間】	第37期第1四半期（自2023年4月1日至2023年6月30日）
【会社名】	西日本旅客鉄道株式会社
【英訳名】	West Japan Railway Company
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長谷川 一 明
【本店の所在の場所】	大阪市北区芝田二丁目4番24号
【電話番号】	06-6375-2229
【事務連絡者氏名】	ガバナンス推進本部課長 豊島 達也
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区芝田二丁目4番24号
【電話番号】	06-6375-2229
【事務連絡者氏名】	ガバナンス推進本部課長 豊島 達也
【縦覧に供する場所】	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京滋支社 （京都市南区西九条北ノ内町5番地5） 同 近畿統括本部兵庫支社 （神戸市中央区加納町四丁目4番17号ニッセイ三宮ビル） 同 中国統括本部 （広島市東区上大須賀町15番20号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第36期 第1四半期 連結累計期間	第37期 第1四半期 連結累計期間	第36期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
営業収益	(百万円)	297,144	369,270	1,395,531
経常利益	(百万円)	16,914	48,632	73,619
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	57,872	33,313	88,528
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	58,832	36,574	95,996
純資産額	(百万円)	1,119,668	1,162,297	1,144,309
総資産額	(百万円)	3,679,582	3,614,617	3,735,507
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	237.40	136.71	363.26
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	27.6	29.1	27.7

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 1株当たり四半期(当期)純利益については、表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、事業の内容に重要な変更はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より、以下のとおりセグメント区分を変更しております。

(1) モビリティ業

鉄道事業のほかに、旅客自動車運送事業及び船舶事業を展開しております。

鉄道事業のうち、当社は、北陸、近畿、中国及び九州北部の2府16県の広いエリアを営業範囲として、新幹線、在来線の特急を中心とする都市間輸送及び京阪神都市圏や広島、岡山等の地方中核都市を中心とする地域での都市圏輸送等を行っております。

そのほか、各種工事業、清掃整備事業等を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
鉄道事業	当社、嵯峨野観光鉄道(株)、関西高速鉄道(株)、大阪外環状鉄道(株)
旅客自動車運送事業	中国ジェイアールバス(株)、西日本ジェイアールバス(株)
船舶事業	JR西日本宮島フェリー(株)
貸自動車業	JR西日本レンタカー&リース(株)
車両等設備工事業	(株)JR西日本テクノス、(株)JR西日本新幹線テクノス
機械等設備工事業	(株)JR西日本テクシア
電気工事業	西日本電気テック(株)、西日本電気システム(株)、(株)てつでん
清掃整備事業	(株)JR西日本メンテック、(株)JR西日本中国メンテック、(株)JR西日本金沢メンテック
建設事業	大鉄工業(株)、(株)レールテック、(株)ジェイアール西日本ビルト、広成建設(株)
その他	(株)ジェイアール西日本リネン、(株)JR西日本カスタマーリレーションズ、(株)JR西日本交通サービス、(株)JR西日本中国交通サービス

(2) 流通業

百貨店業のほかに、主要駅における物販・飲食業等を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
百貨店業 物販・飲食業 各種物品等卸売業	(株)ジェイアール西日本伊勢丹 当社、(株)ジェイアール西日本デイリーサービスネット、 (株)ジェイアール西日本フードサービスネット、 (株)ジェイアールサービスネット広島、(株)ジェイアールサービスネット岡山、 (株)ジェイアールサービスネット金沢、(株)ジェイアールサービスネット福岡、 (株)ジェイアール西日本ファッショングッズ ジェイアール西日本商事(株)

(3) 不動産業

保有不動産を活用した不動産販売・賃貸業のほかに、ショッピングセンター運営業、ホテル業を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
不動産販売・賃貸業 ショッピングセンター運営業 ホテル業	当社、JR西日本不動産開発(株)、京都駅ビル開発(株)、大阪ターミナルビル(株)、 JR西日本プロパティーズ(株) JR西日本SC開発(株)、JR西日本京都SC開発(株)、富山ターミナルビル(株)、 山陽SC開発(株)、金沢ターミナル開発(株)、JR西日本アーバン開発(株)、 中国SC開発(株)、(株)和歌山ステーションビルディング、 (株)新大阪ステーションストア、JR西日本大阪開発(株)、JR西日本山陰開発(株) (株)ジェイアール西日本ホテル開発、(株)ホテルグランヴィア広島、 (株)ホテルグランヴィア大阪、(株)ホテルグランヴィア岡山、 和歌山ターミナルビル(株)、(株)奈良ホテル

(4) 旅行・地域ソリューション業

旅行・地域ソリューション業を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
旅行・地域ソリューション業	(株)日本旅行

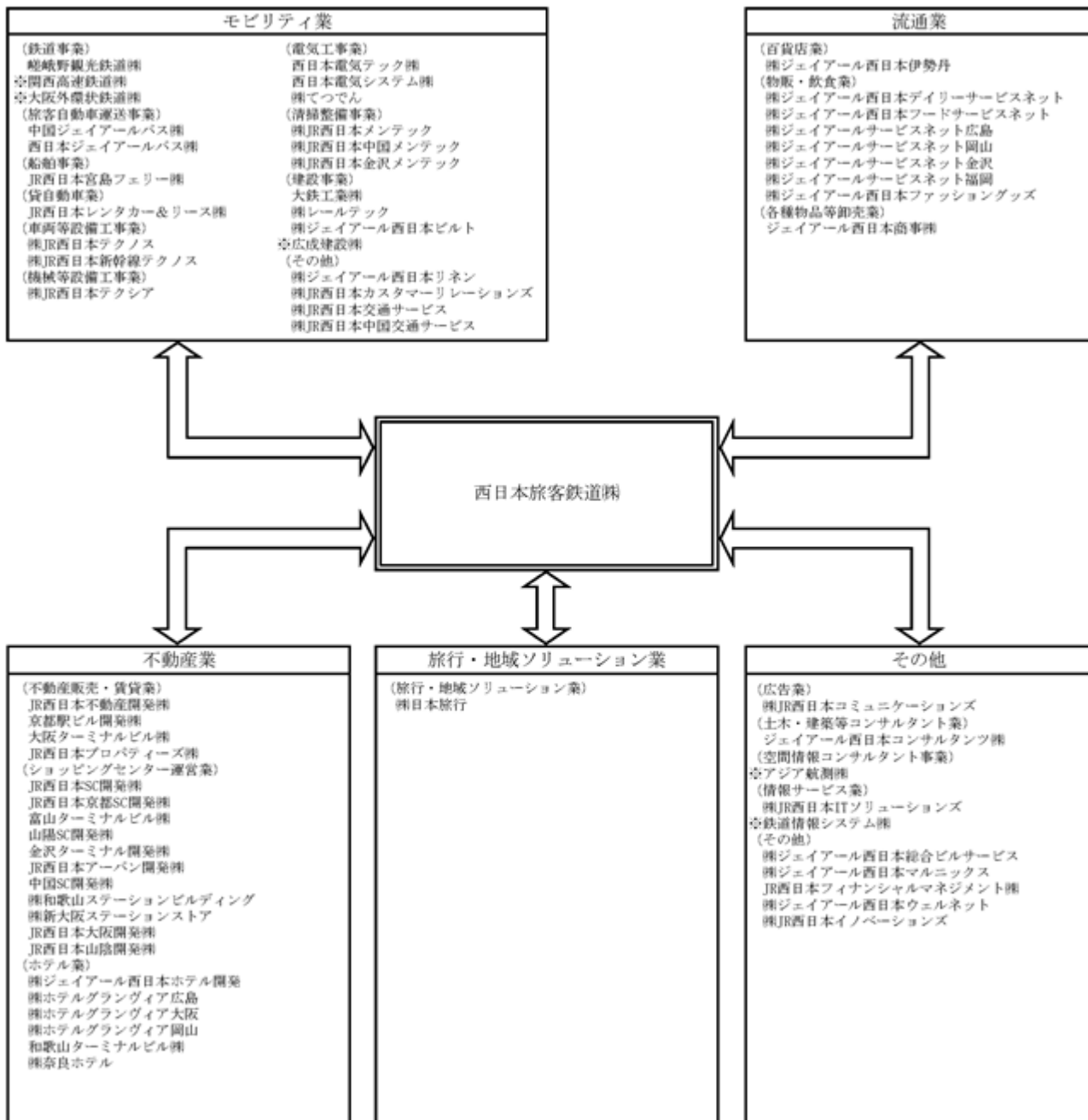
(5) その他

広告業等を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
広告業 土木・建築等コンサルタント業 空間情報コンサルタント事業 情報サービス業 その他	(株)JR西日本コミュニケーションズ ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) アジア航測(株) (株)JR西日本ITソリューションズ、鉄道情報システム(株) (株)ジェイアール西日本総合ビルサービス、(株)ジェイアール西日本マルニックス、 JR西日本フィナンシャルマネジメント(株)、(株)ジェイアール西日本ウェルネット、 (株)JR西日本イノベーションズ

(注) 持分法適用関連会社であります。

以上に述べた事項の概要図は、次のとおりであります。



- (注) 1 持分法適用関連会社であります。
 2 各事業の区分ごとの会社名は主たる事業内容により記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当社グループは、今年度より「JR西日本グループ長期ビジョン2032・中期経営計画2025」をスタートさせ、引き続き鉄道事業の安全性向上を最優先に、鉄道を中心としたモビリティサービス分野の活性化と早期のコロナ前水準への回復、お客様の暮らしに寄り添って価値を創造するライフデザイン分野の積極的な拡大を進めております。

今後とも、「地域共生企業」として事業を通じた社会や地域の課題解決に貢献し、社会的価値と経済的価値を併せて創出することで、人、まち、社会のつながりを進化させ、人々の心と未来を動かすという「私たちの志」を体現し、社会において一層大きな役割を果たしてまいります。

当第1四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴い、お客様のご利用や個人消費が回復するとともに、コスト節減等の構造改革や需要喚起策を実施しました。

その結果、営業収益は前年同期比24.3%増の3,692億円、営業利益は同167.3%増の522億円、経常利益は同187.5%増の486億円、法人税等を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年度の事業適応計画に基づく税制特例の反動により同42.4%減の333億円となりました。

これをセグメント別に示すと次のとおりとなります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、セグメント区分を変更しており、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

モビリティ業

当社グループは、「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」という確固たる決意のもと、被害に遭われた方々への真摯な対応、安全性向上に取り組んでいます。

モビリティ業セグメントでは、鉄道需要の回復によりご利用が増加したこと等から、営業収益は前年同期比20.6%増の2,215億円、営業利益は同315.8%増の328億円となりました。

流通業

流通業セグメントでは、土産店や流通業セグメントに区分される宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」のご利用が好調であったこと等により、営業収益は前年同期比28.4%増の465億円、営業利益は同33億円増の34億円となりました。

不動産業

不動産業セグメントでは、不動産販売・賃貸業において投資家向け販売が減少した一方、ショッピングセンター運営業が個人消費の回復により堅調に推移するとともに、ホテル業においても宿泊需要等が回復したこと等により、営業収益は前年同期比2.9%増の463億円、営業利益は同15.0%増の103億円となりました。

旅行・地域ソリューション業

旅行・地域ソリューション業セグメントでは、全国旅行支援による旅行需要の押し上げ効果等により、営業収益は前年同期比81.4%増の496億円、営業利益は同242.9%増の51億円となりました。

モビリティ業のうち、当社の鉄道事業の営業成績は以下のとおりであります。

ア．輸送実績

区分		単位	第37期第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)			
				前年同期比		
営業日数		日	91	-		
キロ程	新幹線	キロ	812.6	812.6		
	在来線	キロ	(28.0) 4,090.5	(28.0) 4,090.5		
	計	キロ	(28.0) 4,903.1	(28.0) 4,903.1		
輸送人員	定期	千人	278,463	101.8 %		
	定期外	千人	160,949	113.8		
	計	千人	439,412	105.9		
輸 送 人 キ ロ	新幹線	定期	千人キロ	234,420	104.8	
		定期外	千人キロ	4,396,904	139.6	
		計	千人キロ	4,631,325	137.3	
	在来線	近畿圏	定期	千人キロ	4,349,550	101.6
			定期外	千人キロ	2,386,756	123.9
			計	千人キロ	6,736,307	108.5
		その他	定期	千人キロ	959,786	100.4
			定期外	千人キロ	829,479	127.0
			計	千人キロ	1,789,265	111.2
	計	定期	千人キロ	5,309,336	101.4	
		定期外	千人キロ	3,216,236	124.7	
		計	千人キロ	8,525,572	109.1	
	合計	定期	千人キロ	5,543,757	101.6	
		定期外	千人キロ	7,613,140	132.9	
		計	千人キロ	13,156,897	117.6	

- (注) 1 キロ程欄の上段括弧書は、外数で第三種鉄道事業のキロ程であり、それ以外は第一種鉄道事業及び第二種鉄道事業のキロ程であります。また、前年同期比は、前年第1四半期末の数値を記載しております。
- 2 輸送人キロ欄の近畿圏は、京都府(南部)、大阪府(一部を除く)、兵庫県(南部)、滋賀県、奈良県(一部を除く)及び三重県(一部)について記載しております。

イ．収入実績

区分			単位	第37期第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)			
				前年同期比			
旅客 運輸 収入	旅客 収入	新幹線	定期	百万円	2,968	104.9 %	
			定期外	百万円	99,487	138.4	
			計	百万円	102,455	137.1	
		在来線	近畿圏	定期	百万円	26,708	103.1
				定期外	百万円	45,211	121.3
				計	百万円	71,919	113.8
			その他	定期	百万円	5,624	100.8
				定期外	百万円	17,522	123.1
				計	百万円	23,146	116.8
	計	定期	百万円	32,332	102.7		
		定期外	百万円	62,734	121.8		
		計	百万円	95,066	114.6		
	合計	定期	百万円	35,300	102.9		
		定期外	百万円	162,221	131.4		
		計	百万円	197,521	125.2		
荷物収入			百万円	0	95.6		
合計			百万円	197,522	125.2		
鉄道線路使用料収入			百万円	1,190	110.1		
運輸雑収			百万円	15,724	106.9		
収入合計			百万円	214,437	123.6		

(注) 旅客収入欄の近畿圏は、京都府(南部)、大阪府(一部を除く)、兵庫県(南部)、滋賀県、奈良県(一部を除く)及び三重県(一部)について記載しております。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産額は3兆6,146億円となり、前連結会計年度末と比較し1,208億円減少しました。これは主に、現金及び預金の減少によるものです。

負債総額は2兆4,523億円となり、前連結会計年度末と比較し1,388億円減少しました。これは主に、社債の減少によるものです。

純資産総額は1兆1,622億円となり、前連結会計年度末と比較し179億円増加しました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

(3) 経営方針、事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の経営方針、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は11億円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の状況に、重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の計画の著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、新たな経営上の重要な契約の締結、重要な変更及び解約等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数
普通株式	800,000,000 株
計	800,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数 (2023年6月30日)	提出日現在発行数 (2023年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	株 244,001,600	株 244,001,600	東京証券取引所プライム市場	単元株式数は100株であります。
計	244,001,600	244,001,600	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数	発行済株式 総数残高	資本金増減額	資本金残高	資本準備金 増減額	資本準備金 残高
2023年4月1日～ 2023年6月30日	株 -	株 244,001,600	百万円 -	百万円 226,136	百万円 -	百万円 181,136

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 186,800	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 410,000	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 243,288,500	2,432,885	-
単元未満株式	普通株式 116,300	-	-
発行済株式総数	244,001,600	-	-
総株主の議決権	-	2,432,885	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式9,400株(議決権94個)が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 西日本旅客鉄道株式会社	大阪市北区芝田二丁目4番24号	186,800	-	186,800	0.08
(相互保有株式) アジア航測株式会社	東京都新宿区西新宿六丁目14番 1号 新宿グリーンタワービル	10,000	-	10,000	0.00
広成建設株式会社	広島市東区上大須賀町1番1号	400,000	-	400,000	0.16
計	-	596,800	-	596,800	0.24

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第1四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	290,138	205,647
受取手形及び売掛金	43,886	34,548
未収運賃	41,472	32,728
未収金	115,535	70,610
有価証券	36	36
棚卸資産	153,234	169,281
その他	73,844	80,286
貸倒引当金	1,616	862
流動資産合計	716,532	592,275
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,230,595	1,235,299
機械装置及び運搬具（純額）	399,001	390,008
土地	782,965	792,770
建設仮勘定	117,193	117,749
その他（純額）	51,447	49,518
有形固定資産合計	2,581,205	2,585,346
無形固定資産	49,254	47,864
投資その他の資産		
投資有価証券	101,980	112,000
退職給付に係る資産	3,173	3,179
繰延税金資産	232,895	222,407
その他	53,558	54,753
貸倒引当金	3,761	3,759
投資その他の資産合計	387,846	388,580
固定資産合計	3,018,306	3,021,790
繰延資産		
株式交付費	668	550
繰延資産合計	668	550
資産合計	3,735,507	3,614,617

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,020	47,957
短期借入金	17,483	16,949
1年内償還予定の社債	100,000	90,000
1年内返済予定の長期借入金	39,553	48,544
鉄道施設購入未払金	1,245	1,245
未払金	122,108	71,599
未払消費税等	23,451	14,281
未払法人税等	13,600	5,276
前受運賃	37,244	37,767
前受金	44,052	63,487
賞与引当金	29,540	14,639
災害損失引当金	396	391
ポイント引当金	706	225
その他	163,060	177,773
流動負債合計	658,464	590,138
固定負債		
社債	859,992	809,992
長期借入金	557,482	533,477
鉄道施設購入長期未払金	97,436	97,436
繰延税金負債	1,474	1,621
新幹線鉄道大規模改修引当金	29,166	30,208
環境安全対策引当金	3,414	3,409
線区整理損失引当金	15,794	15,794
退職給付に係る負債	223,318	224,495
その他	144,653	145,744
固定負債合計	1,932,733	1,862,181
負債合計	2,591,198	2,452,319
純資産の部		
株主資本		
資本金	226,136	226,136
資本剰余金	183,904	183,904
利益剰余金	626,108	641,136
自己株式	1,378	1,378
株主資本合計	1,034,772	1,049,799
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,061	3,059
繰延ヘッジ損益	9	0
退職給付に係る調整累計額	1,347	1,609
その他の包括利益累計額合計	295	1,450
非支配株主持分	109,832	111,046
純資産合計	1,144,309	1,162,297
負債純資産合計	3,735,507	3,614,617

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
営業収益	297,144	369,270
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	236,790	268,692
販売費及び一般管理費	40,818	48,367
営業費合計	277,608	317,060
営業利益	19,535	52,210
営業外収益		
受取利息	9	15
受取配当金	579	414
受託工事事務費戻入	14	26
持分法による投資利益	432	410
その他	2,018	996
営業外収益合計	3,055	1,862
営業外費用		
支払利息	5,181	5,061
その他	495	379
営業外費用合計	5,676	5,440
経常利益	16,914	48,632
特別利益		
工事負担金等受入額	2,117	2,512
収用補償金	-	27
その他	4,765	173
特別利益合計	6,882	2,714
特別損失		
工事負担金等圧縮額	2,102	2,441
収用等圧縮損	-	27
その他	454	399
特別損失合計	2,556	2,867
税金等調整前四半期純利益	21,239	48,478
法人税、住民税及び事業税	1,824	3,922
法人税等調整額	39,214	9,829
法人税等合計	37,390	13,751
四半期純利益	58,629	34,726
非支配株主に帰属する四半期純利益	757	1,413
親会社株主に帰属する四半期純利益	57,872	33,313

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
四半期純利益	58,629	34,726
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	527	2,092
繰延ヘッジ損益	-	13
退職給付に係る調整額	250	234
持分法適用会社に対する持分相当額	73	23
その他の包括利益合計	202	1,847
四半期包括利益	58,832	36,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	58,075	35,059
非支配株主に係る四半期包括利益	756	1,514

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社等に対する保証債務は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

被保証者	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2023年6月30日)	被保証債務の内容
関西高速鉄道(株)	52,405	52,605	金融機関等からの借入金 に対する債務保証
大阪外環状鉄道(株)	12,931	12,931	金融機関等からの借入金 に対する保証予約
三井物産(株)	860	963	ブラジル都市旅客鉄道 事業に対する保証
非連結子会社	463	501	JR券委託販売等に対する 保証
提携住宅ローン利用顧客	6,274	1,923	提携住宅ローンに対する 保証
その他	3	2	
計	72,938	68,929	

2 今後、福知山線列車事故に伴う補償などの支出が見込まれますが、これらについては、現時点では金額等を合理的に見積もることは困難であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	38,618	39,508

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	百万円 12,200	円 50	2022年3月31日	2022年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	百万円 18,286	円 75	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	モビリティ業	流通業	不動産業	旅行・地域ソリューション業	その他(注1)	合計	調整額(注2)	四半期連結損益計算書計上額(注3)
売上高								
外部顧客への売上高	183,681	36,227	44,986	27,362	4,886	297,144	-	297,144
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,826	1,295	3,729	344	10,123	22,319	22,319	-
計	190,507	37,523	48,716	27,706	15,009	319,464	22,319	297,144
セグメント利益	7,902	115	9,036	1,508	655	19,218	317	19,535

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額317百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	モビリティ業	流通業	不動産業	旅行・地域ソリューション業	その他(注1)	合計	調整額(注2)	四半期連結損益計算書計上額(注3)
売上高								
外部顧客への売上高	221,580	46,520	46,301	49,623	5,244	369,270	-	369,270
セグメント間の内部売上高又は振替高	10,563	1,163	4,111	837	11,980	28,656	28,656	-
計	232,143	47,684	50,413	50,460	17,225	397,927	28,656	369,270
セグメント利益	32,862	3,428	10,395	5,172	133	51,993	216	52,210

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額216百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、事業ポートフォリオ再構築を着実に推進するため、当第1四半期連結会計期間より、鉄道カンパニー発足と合わせ、セグメント区分を変更しております。具体的には、従来「運輸業」、「流通業」、「不動産業」、「その他」としていたセグメント区分を、「モビリティ業」、「流通業」、「不動産業」、「旅行・地域ソリューション業」、「その他」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

(単位:百万円)

	モビリティ業			流通業	不動産業	旅行・地域 ソリューション業	その他 (注1)	合計
	旅客運送		その他					
	定期	定期外						
顧客との契約から生じる収益	34,407	125,236	22,973	34,454	21,428	27,362	4,866	270,730
その他の源泉から生じる収益(注2)	-	-	1,062	1,773	23,557	-	19	26,414
外部顧客への売上高	34,407	125,236	24,036	36,227	44,986	27,362	4,886	297,144

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。

2 「その他の源泉から生じる収益」は収益認識会計基準の適用対象外の収益であり、不動産賃貸収入及びリース収入等を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

(単位:百万円)

	モビリティ業			流通業	不動産業	旅行・地域 ソリューション業	その他 (注1)	合計
	旅客運送		その他					
	定期	定期外						
顧客との契約から生じる収益	35,399	162,539	21,981	44,482	21,489	49,623	5,224	340,740
その他の源泉から生じる収益(注2)	-	-	1,659	2,038	24,812	-	20	28,530
外部顧客への売上高	35,399	162,539	23,641	46,520	46,301	49,623	5,244	369,270

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。

2 「その他の源泉から生じる収益」は収益認識会計基準の適用対象外の収益であり、不動産賃貸収入及びリース収入等を含んでおります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月 30 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 6 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益	237円40銭	136円71銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	57,872	33,313
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	57,872	33,313
普通株式の期中平均株式数 (千株)	243,777	243,685

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

西日本旅客鉄道株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松本 要

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 芳宏

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 仲 昌彦

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている西日本旅客鉄道株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、西日本旅客鉄道株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。